

探訪記録

小田水路改修記念碑

— 御土碑文巡り —

会員 山本保 (佐伯市池船区)

佐伯市星宮五の金欄橋近く、国道二一七号線(鶴岡バ  
イパス)十字路から、ちまっと右にはいたたところ、  
左のように石碑が建っています。碑石の正面には大きく  
次の文字が刻まれ、台石には功業者の名前がずらりと並  
んでいます。

(正面)

小田水路改修記念碑

建設大臣 村上勇書

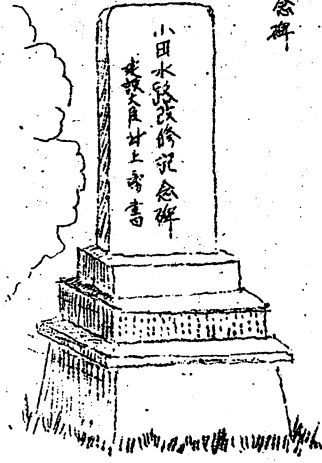
(台座—向って右側)

佐伯市長

出納 菊二郎

(前) 矢野 堯 謙

水路改修記念碑



(台座—正面)

大分県知事 木下 郁

前 綱田 徳 壽

県農林水産部長 辻 英 武

前 波田 野 修

以下、県耕植課長・耕植事務所長・市農林水産課長・  
佐伯耕植事務所職員・鶴岡支所・県及び市議会議員など  
前がずらりと並び、更に裏面にかけて農協役員理事等三  
十名余、總代四十四名、工事施行者数名、石工名に至る  
まで、改修工事関係者の名前が、台石一辺に刻まれて  
いる。

そして、この記念碑の背面一辺には、三百年の歴史を  
ふまえた水路改修の詳細が、刻みこまれている。

(碑背の碑文)

(並一句歌詠は筆者が入れた)

工事の概要

佐伯市を西に五キロ半、南海部郡弥生村大字小田附  
近を流るる香堰を築き、これより水路を穿ち、佐伯  
市大字鶴望に至る延々四千四百余米の水路は、元禄  
四年時の大里正染矢治左衛門時直が開き、その  
後継染矢治左衛門時直によって大改修をしたるも、  
星霜を越るに及び、年々歳々起る災害のため、横堰  
及び堤防は決壊し、漏水甚だしく各所に灌水不便と  
感じ、佐伯市唯一の恵まれた耕地をまちながら、充  
分増産に役立たせることが出来ず、農民はひとしく嘆  
き悲しんでいたが、しかして地方有志の間は大改修  
の機が起り、時の佐伯市鶴岡支所長高野保男、篤農  
の士戸高秀蔵、高野甚作等各先これを唱導され、農  
民またよくつけつきし、先人の遺業を継承して、永久  
施設の横堰補修と水路の三方コンクリート打込みと

すむ大改修工事に着手した。昭和二十七年九月十五日小田井堰土地改良区設置、昭和二十八年一月着工、四年後の昭和三十三年三月竣工、延長四千四百十三米、総工費千三百八十四万四、国庫補助五百五十三万四、労務延人員一万五千五百七十五人という、五年継続工事として最大な数字にあがる大工事であったが、灌漑面積百十町歩、五百三名に及ぶ関係農民自給工に当り、国庫補助をおおぎ、県市当分の指導と佐伯市役所鶴岡支所と事務所として、職員また熱誠努力事務の指導よろしきを得、理事長以下役員は寝食を忘れて改築に専念した。偉大な犠牲的精神と関係農民の殺々手苦の協力によって、遂にこの難工事が竣成した。

かくて力強く水は流れる清水した番匠川の清流ととて、心天置なく増産に励むことの出来ることと想像は、案に感慨無量である。

偉大ななり。千万の巨費を投じた延長四千四百米余、辛苦のあとを眺める時、將に壯觀その土のである。

昭和三十五年四月十三日、百花爛漫のほとり、今年も豊年、龍に穂が咲いて、と祝盆をあげ、目出度く記念碑の除幕式を挙行した。ここに記念碑建設にあたり、事業の概要を記述の後世に残す。

石碑のすぐ後には、水路が流れていきます。毎年、春先の苗代作りの頃は、水路沿いの雑草刈り込みや、みぞさらえに奔走されている農家の方々の姿に接します。その維持管理に非常な努力が注がれています。

石碑の付近には、次の立札も建てられています。

関係者以外 立入禁止

河川工事中、臨水機揚導水路開削護岸その他工事 区間、期間、自昭和五十四年三月三日至昭和五十四年七月二日

施工 二重建設

建設省佐伯工事事務所

二号幹線排水路築造工事

佐伯市役所

土を嵩戴したダンプカーが、ひっきりなしに走っていった。鉄製大型水門も見事に完成し、更に、閉前川の大幅な改修工事も押し進められています。

国道二一七号線鶴岡バイパスを往來する車両の量も、一段と増加してきています。近くには、近代的名州電力上岡変電所の施設設備等が建ち並び、昔の聖山（ひしり）も、金網橋周辺の面影は度々を映っています。

そんなまわりの変貌にとんどやくないように、水路にそって数株の葉桜並木の陰にこの記念碑は立ち、しっかと小田水路建設の歴史と物語っています。(おわり)

寄贈資料お礼

東京都 福川一徳氏より本会へ寄贈

大神姓系譜 稿本(コピー)

昭和八年十二月 京都在住 賀未惟達 筆稿

豊後大神氏、豊後緒方氏、豊後佐伯氏をはじめ、大神姓系譜に属する各地の長形姓譜を、賀未惟達の手記にまとめたもの。三〇枚ほどの大量、目下断絶をすませ、総ページ八〇ページに達する大部、これを五冊下製本、会員の閲覧に提供するつもり。